

留学先ワシントン大学（アメリカ合衆国）
---------------------

『I LOVE SEATTLE!!』
--------------------



[右&下写真] 最高のブルースカイ&キャンパス!!  
大学キャンパスのようすです。最高の青空と緑。キャンパスを歩くだけでもものすごく幸せな気分になりました。



[左写真] 大声スピーチ大会会場！  
キャンパスの中心に位置する広場。留学中に受講した「Public Speaking」の授業では各学生が5～8分の間、この広場にて大声で叫ぶスピーチをしました><



[上写真] どこまでも続く free way!

## ～Introduction to Communication I 授業のようす～

### 意図すること

- ①アメリカの大学での授業の流れ（イメージ）を伝える
- ②交換留学生として授業を乗り切るにあたって工夫した点を伝える

### はじめに

これは交換留学にあって最初の学期に履修した科目です。大きな教室で 400 人程度の学生が参加する講義形式の授業が火・木曜日の週二回各 2 時間あり、金曜日には小さな教室で 20 人の学生が参加するディスカッション形式の授業が 1 時間ありました。Introduction という名の付いた授業の多くは、このように週 4 時間の講義クラスと週一回 1 時間にわたる少人数ディスカッションクラスのセット。火・木曜日の講義はアメリカ人 Professor David Domke が、金曜日のディスカッションクラスは TA (Teaching Assistant) と呼ばれる博士課程勉強中の韓国人 Nicole Kim が担当でした。

### 火・木週二回の大講義形式授業

アメリカにおける大学の初めての授業、すなわち、英語で受ける初めての授業ということで毎回、精一杯の集中力で授業に臨みました。担当教授が授業用ウェブサイトを親切にも作ってくれていることが多く、この授業でもコースウェブがありました。授業が行われる前日までに簡単な授業レジュメがウェブ上にアップ（掲載）されるようになっていて、教授が口頭で説明したことをプリントアウトしたレジュメに書き加えていく作業を毎回していました。

### 金曜日の少人数ディスカッションクラス

担当 TA の韓国人 Nicole の英語があまりにも流暢でネイティブスピーカーかと初め思っていました。十代の頃に韓国からアメリカにやってきて 10 年以上経つとのことでした。交換留学の最後の学期（春学期）で取った授業で担当 TA をして頂いた日本人の方もそうでしたが、海外で多くのネイティブアメリカン学生を相手にレクチャーを行う外国人 TA の存在にとっても感動し、「自分も頑張ろう！」と良い刺激を受けました。

交換留学が終了した今もネイティブスピーカーの学生に混じって英語のディスカッションに加わるのは勇気と大きな努力が必要ですが、この授業は交換留学最初の授業ということで半端なく大変でした。少人数授業ということで発言の機会が多くあり、授業中はドキドキ&自分の英語力の未熟さに毎回へこんでいたのを強く覚えています^\_^

### 大講義レクチャーでの工夫

前述のとおり、大講義での授業では簡単な授業レジュメがあったため教授が話したことをすべてを書き込む労力は要らなかったのですが、それでも簡素なレジュメだったため授業後にしっかり復習ができるようにと色々と書き込む努力をしました。ただ、書き込むためには教授が言っていることを耳で聞き理解することが大前提で、すべて英語で受ける初めての授業であったため大変苦労しました。そこでその苦労を韓国人 TA に話したとき「授業を録音してみたら」と提案され、早速それを実行するようになりました。授業をカセットテープに録音するなんてことは初めての経験でしたし、また、なんか『スパイ』でもしているようで少し面白かったです！毎回の授業が終わった日の夜と試験前の 2 回すべての講義を録音テープ使って復習しました。

### コースシラバス

どの授業でも学期最初の授業時にコースシラバスが配られます。シラバスには教授や TA の連絡先と office hours、宿題スケジュール、成績評価基準や課題エッセイ等について非常に細かく書き込まれています。（細かすぎるだろうというくらい細部にわたり説明がされます。たとえば、課題エッセイの評価基準が事細かに記され「採点に不満がある人はシラバスに載ってある評価基準と照らし合わせて Office Hour 中に申し出てください」と学生に明確に伝えられました。）シラバスを見ればこれからの一学期どのような形で授業が進み、どのような課題が与えられるのか明確にイメージをすることができ、とても有効、かつ、効率の良いものだと感じました。

### 課題エッセイ

## ①Essay No.1

⇒Seattle Times (地元新聞)の記事を分析するというものでした。米国のジャーナリストが無意識に共通して持っていると考えられている8つの価値観を授業で教わり、与えられた記事のなかにそのうちの何が含まれているか述べました。

## ②Essay No.2

"Mean Girls"というアメリカのコメディ映画をアメリカ人の友達4人と見て、彼らが映画のどのような場面にどのような反応を示すのかを映画を見ているあいだ観察し、その後分析するというものでした。映画を見終わったあとに彼らに対して映画についてインタビューをし、それをもとにして友達4人がどのように映画に反応したのか、授業で教わったメディアの4つの役割と照らし合わせて分析しました。

オフィスアワー

どの授業の教授もTAも各自 office hours という学生が自由に質問できる時間を設けていて、交換留学期間中頻繁に利用しました。この授業では韓国人TAのNicoleに試験前どうしても聞き取れなかった授業内容や理解できなかった内容を質問したり、課題エッセイの構成について意見をもらったり、大講義レクチャーで授業をカセットテープに録音してみるというアイデアも貰いました。また、office hours 以外の時間帯でも個人的にアポイントを取って協力してもらいました。アメリカの大学では留学生という存在は全くめずらしくないので自分から積極的にサポートを求めない限り、基本的に助けてくれないと思っておいたほうがよいかも。

Reading Homework (宿題)

これが一番苦しみました。アメリカ人の学生でさえ全て読み終わらないんじゃないかと疑問に思わざるを得ないほどの読書の宿題が課されました。24時間空いている図書館があり、友達といつも朝の1時か2時あたりまで図書館で宿題に明け暮れていたのですが周りにもたくさんの学生が夜遅くまで(朝早くまで?)勉強を続けていました。留学先で一番多くの時間を過ごしたのは図書館だと言い切れます>\_\_<



[上写真] 10月31日ハロウィンパーティ!

カボチャを切り込みました。このあと、それぞれやりたい放題の衣装を着飾った近所の人達が大勢家に集まってきて大変な騒ぎになりました^^;

「左写真」 シアトルマリナーズ観戦!  
シアトルと言えばイチロー。観戦に行った際は、地味に内安打打ってくれました。写真右は香港人の親友 Kevin。ルームメイトで、今も連絡を取り合う最高の友達です。よく二人でアジア料理店まわりをしました。



[左写真] 写真中央は Johnny。

彼はクリスチャン学生団体のスタッフの一員で、彼と初めて会ったのは 2005 年 1 月でした。彼の紹介によって出会ったグループと仲良くなり、交換留学残り 5 ヶ月間は毎日最っ高の時間を過ごすことができました!!

[下写真] 誕生パーティの様子。

週一度の聖書の勉強会、ボウリング、滝巡りツアー、お別れキャンプファイアー、図書館で一緒に勉強、夕食会など留学期間の後半、ほぼ毎日のように一緒に時間を過ごした仲間。皆ひとりひとりユニークで優しい性格の持ち主でした。



2004 年 9 月より米国シアトルにあるワシントン大学 (University of Washington) にて過ごした 10 ヶ月間。学外すぐの距離にはタイ・メキシコ・インド・ベトナム・ギリシャ・中国・韓国・エチオピアなど世界各国の料理店が連なり、日本料理 (主にテリヤキ) 店もたくさん目につくが日本人オーナーは皆無で、そのほとんどの経営者がアジア人。学内に目を向けると多くのアジア人が英語を学ぶために大学の ESL (English as Second Language) クラスを受講。大学キャンパスのあちこちで開かれている学生主催の Bible Study (聖書の勉強会) に参加すると多くの韓国人クリスチャンに出会い、親の教育方針により 14 歳前後にアメリカへ一人移り住み、英語を流暢に話すアジア人学生も少なくない。「アメリカ」を語るときには、しばしば「人種のるつぼ」または「サラダボウル」というたとえが用いられるけど、まさに、僕にとって交換留学の体験は「アメリカ」との出会いであるとともに、「アジア」との出会いでもある、貴重なものとして心に強く刻まれた!!アメリカには本当に色々な人がいて、ひとりひとりが本当にユニーク!!日本人や外国人っていう外枠を楽しみながらも、国籍問わずユニークな存在であるひとりひとりとの出会いを大切にしていきたい、そう思う今日この頃です。

*Life goes on and on and ON!!!*